

表 6-2 足尾鉾山と20世紀末の銅に関する要素の比較

要素	足尾操業時	20世紀末
主要銅鉾石産出区	アメリカ,スペイン/ポルトガル, チリ,日本	チリ,アメリカ,ペルー,オーストラリア インドネシア
鉾山操業時期	1610年~1973年(足尾)	操業中
需要	初期は粗銅のまま輸出, その後精銅にして輸出	精銅,銅カソード 電子製品,建設,機械,輸送機器
製錬生産	~1989年	操業中
鉾害	1956年,古河-オートクープ法 により二酸化硫黄の発生防ぐ. 周辺の森林破壊, 緑化事業継続	一部に廃滓堆積場の崩壊、河川 水質汚染,土壌汚染,廃滓堆積場 や採掘跡からの粉塵,酸性鉾山 排水等の被害
鉾害防止技術	初期は,なし	あり
鉾害被害地域	限定的	限定的
環境意識	反鉾害運動(地域住民及び全国)	反鉾害運動(地域住民) (一部に環境汚染に抗議して及び 利益の地元還元を求めてデモ,及び 過激な抗議行動あり)
マスコミ	全国的	国際的
その他		一部に外国資本が入っている